

教員名	耳塚 寛明 (MIMIZUKA, Hiroaki)
所 属	文教育学部人間社会科学科教育科学講座
学 位	教育学修士 (1979 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	mimi@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

教育社会学 / 学力 / 教育政策 / 教育機会 / 進路選択

◆主要業績

総数 (5) 件

- ・ MIMIZUKA, Hiroaki, "The Instability of the School Function and the Transition from School to the Workforce: Changes in the Education System and Jobless High School Graduates", Research Monograph, Ochanomizu University 21st Century COE Program, pp.123-130(2006)
- ・ 耳塚寛明「学力・家庭的背景・地域」『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 J E L S 第 8 集』お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム、pp.5-14 (2006)
- ・ 耳塚寛明「教育アスピレーションの規定要因」『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 J E L S 第 8 集』お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム、pp.31-36 (2006)
- ・ 森隆夫・耳塚寛明編『志 社会へのおもいやり』ぎょうせい、2006、206 頁

◆研究内容

教育社会学。とくに教育政策、学校組織、進路選択、学力形成に関する社会学的研究。

1. 学力格差の社会的形成過程研究

「だれが学力を獲得するか」は、教授学上の焦点関心であるのみならず、教育選抜の帰結を左右中核的問題である。21 世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達」に事業推進者と参加したが、この一環として「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」(J E L S) を立ち上げ、プロジェクトを主宰した。なお、学力格差に関する社会学的研究は、平成 18 年度より文部科学省新教育システム開発事業に採択され(18 年度約 1800 万円)、3 カ年計画で大規模な調査研究がスタートした。

2. 進路選択の社会学

だれが、どのように進路を選択し、選抜されるのか。とくに高校生の進路選択の社会学的分析。高卒無業者、ニート、フリーターにも焦点を合わせる。

3. 教育政策の社会学

◆教育内容

学部、大学院において以下の授業を開講している。

1. 教育社会学、学校社会学の概論および特殊講義
2. 社会調査法、教育調査法に関する講義、演習
3. 教育社会学方法論に関する講義、演習
4. 教職課程における教育社会学を中心とした講義

【2006 年度】学部ゼミでは、「教育改革の社会学」を主テーマに、『教育社会学 第三のソリューション』(九州大学出版会)を輪読した。各回とも、最新の教育関係の記事、番組等を取りあげて議論するコーナーを設け、また夏合宿も行った。大学院ゼミでは、『変動社会のなかの教育・知識・権力』を素材に、新自由主義的教育政策の帰結について議論した。大学院生合宿を 2 回実施。このほか、単位にはならないが、研究室構成員をメンバーとする「業績ゼミ」を随時実施し、進行中の研究について意見交換を行った。

◆Research Pursuits

Sociological Study of Education: Educational Policy, School Organization, Educational Selection, Academic Achievement.

Theme 1. Ecological Study of Student Achievement: I administered an empirical research on the relationship of students' achievement, their career formation and family background.

Theme 2. Sociological Study of Student Career Formation: I analyzed changing patterns of youth transition from school to workforce.

Theme 3: Sociology of Educational Policy in Japan

◆Educational Pursuits

1. Introduction of Sociology of Education, Sociology of School
2. Lecture and Exercise of Social Research
3. Lecture and Seminar on the Methodology of Sociology of Education
4. Lecture on Social Foundation of Education (Teacher Training Course)

In the 2006/2007 term, major theme of seminars in the undergraduate course and in graduate course was limits and possibilities of educational policies of the new right.

◆共同研究例

第4回学習基本調査（ベネッセ教育研究開発センター、2006-2007）
学力格差の実証的研究（委託研究、文部科学省新教育システム開発事業）

◆共同研究可能テーマ

- ・学力格差の社会学的研究
- ・青少年の進路選択、職業意識に関する研究

◆将来の研究計画・研究の展望

だれが学力を獲得するのか。JELS 2003 を用いた分析を通じて、子どもたちの学力形成に家庭の経済と文化的環境が関わり、学力格差が生まれていることが明らかになりつつある。どこにいかなる資源配分が必要であるのかの分析を行い、業績主義の衣を羽織った不平等を是正する方策を模索したい。青少年期から成人期までを対象とした縦断的研究である JELS を継続し、育てたい。

◆受験生等へのメッセージ

いま日本の教育は激動期にあります。義務教育は、長い間変わらなかった制度の根幹が崩れようとし（たとえば義務教育費国庫負担制度や教員人材確保法）、「脱ゆとり路線」へと舵が切られました。行政の重点は、教育条件整備から結果の評価に基づく資源配分へとシフトしつつあります。全国一斉学力テストの導入や学校評価システムの整備はその一例です。こうした教育界を襲う変化は、子どもたちの発達に、学校の機能に、さらには社会そのものの姿に、どういう帰結をもたらすのでしょうか。とりわけ、格差が再生産される社会に日本は変わっていくのでしょうか。教育と社会の現在に危機感を持ち、エビデンス・ベースにアプローチしようとする皆さんを歓迎します。

